

平成 29 年度 国立江田島青少年交流の家教育事業（長期宿泊体験事業）

チャレンジ！ETAJIMA～未知への挑戦・乗り越えろ自分の限界～ 実施報告書

- 【趣 旨】 江田島市島内踏破やカッター研修という大きな挑戦を通して、仲間の大切さや協力することの重要性を学ぶとともに、人間としての強さやたくましさを育む。
- 【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家
- 【後 援】 呉市教育委員会，東広島市教育委員会，江田島市教育委員会，坂町教育委員会，府中町教育委員会，海田町教育委員会，廿日市市教育委員会
- 【期 日】 平成 29 年 8 月 20 日（日）～平成 29 年 8 月 24 日（木）（4泊5日）
- 【会 場】 国立江田島青少年交流の家，江田島市島内
- 【連携施設】 江田島市沖美支所，宮ノ原交流センター，真道山公園キャンプ場
- 【対 象】 小学校 5 年生から小学校 6 年生
- 【参加者数】 23 人：内訳（男性 12 人・女性 11 人）（6 年生 10 人・5 年生 13 人）

【企画・運営のポイント】

（1）江田島の自然と施設のメインプログラムを生かした体験活動

子供達の自然体験活動の不足が叫ばれている現代において，この江田島の自然と「カッターの江田島」と呼ばれる当施設のメインプログラムを生かし，海はカッターを漕いで移動し，島内の山道は徒歩で移動する移動型の長期キャンプ（4泊5日）を計画した。

長距離の行程を徒歩で移動するキャンプの実現に向けて，先行実施をしている他施設と連携を図り，様々なアドバイスを受けるとともに，江田島市内の公共施設（江田島市沖美支所・宮ノ原交流センター・真道山公園キャンプ場）とも連携を図り，事業の企画・実施を行った。

（2）明確な目標設定

本事業の主旨は，「江田島の島内踏破やカッター研修という大きな挑戦を通して，仲間の大切さや協力することの重要性を学ぶとともに，人間としての強さやたくましさを育む。」である。目標の柱として，「様々な困難を仲間と共に協力して乗り越え，粘り強く取り組み，人間としての強さやたくましさを培うと同時に，主体性を育む。」ことを設定し，事業を通して「やり遂げる力」「仲間と協力する力」「困難に直面した場面で全力を出し，挑戦する力」を身に付けさせたいと考えた。

（3）目標達成のための手立て

課題解決に向けては，他者とより深く関わり，自分の成長と自然を含む周辺環境などを積極的に感じ，自分自身の思いや考えを伝え，他者の考えをしっかりと受け止め，それらを通して，仲間と協力し支え合いながら困難を克服する。そうする事で，これらの力を子供達に育むことができると考えた。

この目標を達成するためには，子供達自身が全力を出し切り，次の課題へ取り組み続ける意欲を高めることが必要不可欠である。そこで，毎日，子供達及び学生ボランティアスタッフで自分たちの一日を振り返り，具体的な自己評価をさせ，日々の成長の自覚を促すととも

に、新たな課題を設定させるようにしていった。

(4) 「仲間と考え、判断し行動する力」を育成するために

自分の思いや考えを伝え合い、協力して困難を克服していくためには、互いの深い理解と素地作りが大切であると考え、初日から2日目までは、所内で研修をし、3日目から所外で移動する事業プログラムに設定した。

(5) 仲間と共に踏破した喜びを共有するために

踏破に向けて、苦労を共にし、協力して課題を克服しながら踏破した喜びを共有するために、閉会式では、参加者一人一人に「踏破証」を授与し、事業における活動の全日程を振り返るスライドショーを作成した。それをVTRで流し、参加者全員で振り返りを共有できる場面を設定し、苦労や喜びを共有した。

【活動の実際】

(1) 1日目

平成29年8月20日(日)

8月20日(日)	移動区間	移動距離
・開会式、出発式 ・研修等 ①人間関係作りプログラム ②テント張り実習 ③班ミーティング (踏破に向けた決意・班目標の設定)		

- 1日目は、「人間関係づくりプログラム」を通して、相互理解を行い、4つのグループで最初のチャレンジであるテント張りの演習を行った。テント張り演習では、スタッフはほとんど指示を出さず、グループのメンバーで協力し、失敗を繰り返しながらテントを張っていくことで、子供達が協力し、主体的に活動させるように工夫した。どうしても分からないところは、仲間と意見を出し合いながら作業することで、テントを張り終えた時には、「もめたりもしたけどテントが完成してすごくうれしかった。」「これまでこんな達成感味わったことがありませんでした。」「仲間がすごく大切だと思いました。」などの感想があり、仲間を考える素地作りへと繋がったことが窺えた。夜のミーティングでは、個人の決意、班の目標を定めた。自分の決意をみんなの前で表明することで、目標の自己決定、挑戦する意欲を育んだ。また、班で話し合いながら目標を設定していくことで、互いの思いや考えを伝え合い、仲間と考え判断する力の育成へと繋がった。

(2) 2日目

平成29年8月21日(月)

8月21日(月)	移動区間	移動距離
・研修等 ①カッター研修(基礎) ②班ミーティング (踏破目標の設定・踏破計画作成) ③カプラ研修	艇庫沖	1.5 Km

- 2日目は、各グループで全行程の「踏破計画」を立てた。これは、休憩の回数や時間、各ポイントの出発時間等を自分達で設定し、踏破に向けての計画を立てるものである。子供達は、道のりや移動距離を記した地図を基に、一生懸命に考えて計画を立てていた。「この時間の出発じゃ到着時刻に間に合わないよ。」「〇〇さんが言った意見がいいね。みんなはどう思う。」「元気だったら休憩は2回でどんどん先へ行った方がいいよ。」などの意見を出し合い、仲間ですっきりと考え、判断する姿を見せていた。初めは、なかなか話し合いの中に入れなかった子供もいたが、学生ボランティアの声掛けなどにより徐々に輪の中に入

り、グループ全体での話し合いができるようになった。

(3) 3日目

平成29年8月22日(火)

8月22日(火)(地図:赤)	移動区間	移動距離
①交流の家～三高港 (前日の1.5Kmを認定する。)	①3.5Km (雷注意報発表により中止)	計12.7Km ※前日のカッター 研修(基礎)の 移動距離認定を 含む。
②三高港～三高ダム(地図①)	②3.1Km	
③三高ダム～砲台山(地図②) 【標高約400m】	③3.3Km	
④砲台山～新沖美支所(旧沖小学校)	④4.8Km	

- 3日目は、これまでの話し合いをもとに、元気に徒歩で出発して行った。道中では、想定していた通り、意見のぶつかり合い、もめる姿、計画通りにいかず悔しい表情を見せる姿、一生懸命に仲間を励ます姿、踏破に向けて苦勞する子供達の様々な姿が見られた。しかし、それらの繰り返しを通し、子供達は、自分たちで折り合いをつけ、より良い方法を判断し行動する力を身に付けていった。

(4) 4日目

平成29年8月23日(水)

8月23日(水)(地図:青)	移動区間	移動距離
①新沖美支所(旧沖小学校) ～鹿川水源地(地図①)	①4.9Km	計10.2Km
②鹿川水源地～真道山キャンプ場 【標高約150m】(地図②)	②5.3Km	

- 4日目は、キャンプ場でのテント張りや宿泊にも挑戦。1日目に練習した通り、上手にテントを張ったが、体が疲れているため、なかなか思うように助け合うことが難しかった。しかし、その後の野外炊事では、カレーライスをつくり、協力をして本当においしいカレーを作ることができた。

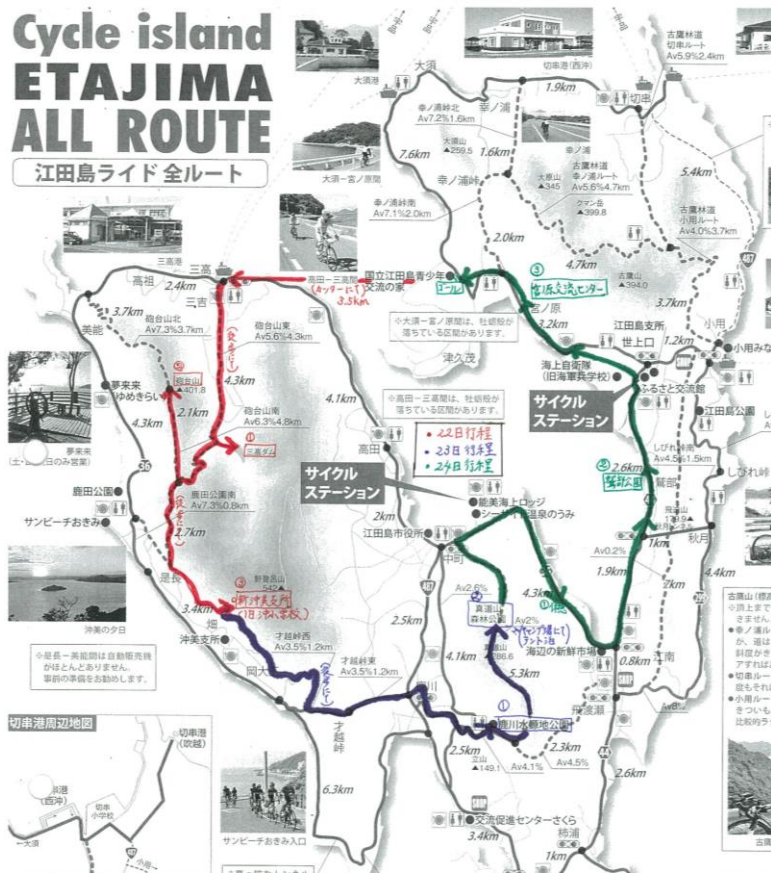
(5) 5日目

平成29年8月24日(木)

8月24日(木)(地図:緑)	移動区間	移動距離
①真道山キャンプ場～休憩ポイント (地図①)	①4.7Km	計14.6Km 【総移動距離】 37.5Km
②休憩ポイント～鷺部公園(地図②)	②3.4Km	
③鷺部公園～宮ノ原交流センター (地図③)	③5.0Km	
④宮ノ原交流センター～交流の家 (地図:ゴール)	④1.5Km	

- 最終日である5日目。この日は、早朝5時に起床し、テントの片づけ、荷物の整理のあと、ホットドック作りで朝食を済ませ、午前7時にはキャンプ場を出発した。この期間で最長の14.6キロメートルの徒歩の活動である。疲れもピークになっている中、これまで以上に、子供達はお互いに声を掛け合い、体調の悪い仲間のペースを気遣いながら、歩いていった。前日までは大幅に遅れるグループもあったため、全グループが時間通り到着できないのではないかと心配したが、一人も欠けることなく、全グループが時間内にゴールすることができた。5日間で、子供達に「仲間と考え、判断し行動する力」が養われていき、仲間と協力して様々な困難にも挑戦し、やり遂げる力が養われていったと考える。

【移動地図及び参加者活動の様子】



人間関係作りプログラム



テント張り実習



班目標の設定



カッター研修



カッター研修



踏破計画の作成



カブラ研修



地図を手掛かりに進む



協力してテント張り



野外炊事



休憩中に励まし合い



みんな一緒にゴール

【成果】

- (1) 事業内容及び日程の厳しさからも見て、参加応募者が少ないのではないかと心配していた。その分、広報活動の幅を広げて開催要項及び広報チラシの配布を実施した。そうすることで、募集定員25人を充足する申し込みがあった。中でも、1名県外からの参加申込もあり、大きな収穫となった。
- (2) 安全面での対応を十分なものとするために、開催1ヶ月前より、実地調査を行い、各休憩場所を確保するために、江田島市内の公立施設とも連携を図った。事前に事業の目的及び主旨の説明をして協力を仰ぐことで、本事業内を十分に理解して頂き、多大な協力を仰ぐことができた。
- (3) 「私は、このキャンプで2つのことを学びました。1つは、友達（仲間）の大切さです。つらいときに、班の友達が色々声をかけてくれてすごくうれしかったです。2つ目は協力することです。野外炊事や洗い物をみんなですぐに終わって、大きな達成感がありました。」・「未知への挑戦ができたのも、自分の限界を乗り越えられたのも全部『チャレンジ！ETAJIMA』でつくった仲間のおかげです。この事業で仲間の大切さを学んだ。このことを学校生活で生かしていきたいです。」などの参加者の感想からも伺えるように、本事業が、目的に沿って、参加した子供達に大きな教育的効果をもたらしたことが伺える。子供達が主体的に考え、自ら判断し、仲間と協力して課題を克服することができた。特に、最終日は早朝の起床で、体力も限界に近づいている中、班の全員が励まし合い、互いに支え合いながら全班が時間内にゴールできたことは、子供達の成長の証である。参加者アンケートでの満足度も高かった。
(参加者満足度「4泊5日、全体をとおしてはどうでしたか。）」
・満足：61% ・やや満足：39% ・やや不満：0% ・不満：0%
- (4) 熱中症対策として、救護者の常時帯同及び水分の十分な確保を行った。期間中は、天気も良く高温注意情報が出されるなど、気象への警戒が必要な中での徒歩による移動となったが、一人のリタイアもなく最終日まで踏破することができた。
- (5) ボランティアスタッフが、一人一つの班を期間中を通して担当することで、子供達とスタッフの間に信頼関係も生まれ、閉会式でのスタッフの感想を、目に涙を浮かべて聞いている子供もおり、年齢の垣根を超えた関わり合いを持つことができた。また、今回、地元の施設と連携することで、あらためて江田島の自然や歴史に触れることができ、地元の方々とのおふれあいもできた。さらに、子供達と一緒に活動した学生ボランティアの成長も感じることもできた。

【今後の課題】

- (1) 本年度は、来年度6泊7日の長期宿泊体験活動を実施する試行として行った。今後、周辺地域の他の公立施設との連携についても検討をしていき、長期間に渡って準備を整えていく必要がある。
- (2) 来年度に向けて、実施コースの見直し、事前の学生ボランティアの育成及び参加人数など、今回の事業の成果や課題を踏まえ、地元の自然環境を活かしつつ、より充実した教育的効果の高い事業を展開していきたい。
- (3) 参加者の中には、実際に参加してみて、事業内容の厳しさを実感した参加者もいる。来年度は、開催要項の日程説明をより具体的なものにし、参加者が事業内容をより深く理解して参加できるようにしていく必要がある。
- (4) 来年度は、6泊7日の長い期間での実施になる。ボランティアの事前指導の充実と安全対策をより充実したものにしていく必要がある。そのため、当所の職員の人員も多く確保し、ボランティアスタッフも含めた実地踏査等を繰り返す必要がある。
- (5) ボランティアスタッフを早めに確保し、保護者説明会等にスタッフも出席できるようにする。参加者の保護者の方々の心配な事や要望等を直接聞き取り、事業中の指導に生かすことで、事業における教育的効果をより大きなものにし、参加者のニーズに応じた内容にして、より充実した事業にしていきたいと考えている。